

『御殿場市の防災について考える！（地震編）』

～災害は『まさか？』じゃなくて『来たか！』で対応し、大切な命を守る！～



R 8 . 1 0 . 1 0
御殿場市危機管理補佐監

QR:御殿場市役所防災出前講座

PC検索：〃

②自治体・企業関連

『御殿場市の防災について考える！（地震編）』

主 要 略 歴

御殿場市役所 危機管理補佐監

杉 本 嘉 章(すぎもと よしあき) (S36(1961). 5. 12生 65才)

◆ プロフィール

静岡県御殿場市出身(神山小・富士岡中・神奈川県立湘南高校・日本大学(文理学部))

昭和52年 陸上自衛隊少年工科学校入校(神奈川・横須賀市)

平成 5年 第6戦車大隊第2中隊長(宮城) 平成7年 (株)アサヒビール研修

平成14年 第12偵察隊長(群馬) ※新潟県中越地震(H16)

平成17年 イラク復興業務支援隊作戦幕僚(サマワ) 平成18年 統合幕僚学校学生(東京)

平成19年 新潟県中越沖地震現地調整連絡幹部(新潟) ※新潟県中越沖地震(H19)

平成20年 第71戦車連隊長(北海道)※有珠山地域担当(H20)、北海道胆振東部地震(H30)

平成22年 自衛隊高知地方協力本部長(高知) ※東日本大震災(H23)

平成24年 陸上自衛隊幹部学校主任教官(東京)

平成25年 東部方面総監部総務部長(東京)※伊豆大島豪雨災害 (H25)、御嶽山噴火 (H26)

平成27年 西部方面混成団長 兼 相浦駐屯地司令(長崎・佐世保市) ※熊本地震(H28)

平成29年 陸将補 早期退職

平成29年4月 御殿場市役所入庁 危機管理課長 平成30年 危機管理監(部長級)

令和 4年4月 現 職 ※令和元年台風19号(R1)、熱海市伊豆山土石流災害(R3)

平成17年 東京都北区立岩淵小学校PTA会長 平成19年東京都立飛鳥高校PTA副会長

平成24年 高知県観光特使 平成29年 長崎県観光特使 御殿場市国際交流協会会員

令和 元年 市民大学・シニア大学・御殿場看護学校講師(災害・国際看護学)、各種セミナー講師

令和 6年 台湾全国防災教育従事者ステップアップ対策国際実務研修講師



10年間の勤務で学んだこと

漫才は面白いが
防災は面白くない！

∴ 楽しい防災教育を心掛けよう！
難しい ⇒ 優しく ⇒ 面白く

防災は重要だけど
あまり興味はない！😞

御殿場市域における主な災害

御殿場市域における主な災害

出典：御殿場市地域防災計画「資料の巻」

台風：6件 集中豪雨：1件 低気圧：1件 大雪：1件 地震：3件

災害発生日	種 別	概 要
昭和41年9月24 ～25日	台風	台風第24号と26号が日本列島を縦断 御殿場市の被害は 負傷者2人、住家全壊6戸、半壊382戸、床下浸水多数 、罹災世帯2,231世帯、罹災者11,155人、被害総額6億9,109万円 御殿場市にはじめて「災害救助法」適用
昭和47年7月12日	集中豪雨	静岡県東部に集中豪雨 御殿場市では 床上・床下浸水138世帯 、田畑の流出・冠水等672ha、被害総額2億5,393万円
昭和54年10月19日	台風	台風第20号による御殿場市の被害は、 住宅全壊10戸、半壊4戸、流失1戸、床上浸水42戸、床下浸水810戸 、損害額23億394万円、総雨量300mm
昭和57年8月1日	台風	台風第10号による御殿場市の被害は、 住家半壊5戸、一部破損1戸、床上浸水21戸、床下浸水107戸 、損害総額18億530万円、総雨量555mm
平成16年12月5日	急速に 発達した 低気圧	急速に発達した低気圧の影響で御殿場市塚原地先にて 家屋が倒壊、負傷者3名 (平成16年の台風上陸個数は、気象庁の統計開始以来の記録(6個)を大きく更新し10個を記録)
平成19年9月6日	台風	台風第9号による御殿場市の被害は 床上浸水13戸、床下浸水31戸 、特に富士岡地区は 黄瀬川の氾濫 により、甚大なる被害を受ける。被害総額3億4千百万円、総雨量631mm
平成22年9月8日	台風	台風第9号による御殿場市の被害は 床上浸水1戸、床下浸水10戸、道路等被害22か所、農地等被害174か所などの被害 を受ける。被害総額約1億3千万円、降水量10時間で218mm
平成23年9月21日	台風	台風第15号による御殿場市の被害は、 負傷者4名、床下浸水や屋根・窓の損壊11件、倒木による道路障害74か所以上 、農地等被害16か所、停電1,100戸などの被害を受ける。被害総額約5,700万円 1時間あたりの最大降水量63mm、最大瞬間風速45.9m
平成26年2月14日	大雪	低気圧接近に伴い大雪警報が発令され、御殿場消防署管内の 積雪量が85cm となった。東名高速道路をはじめ市内主要幹線で交通規制が行われ、公共交通機関も運休となった。 御殿場市では 軽症者16名、住家の一部破損やビニールハウスの倒壊等の被害が多数発生

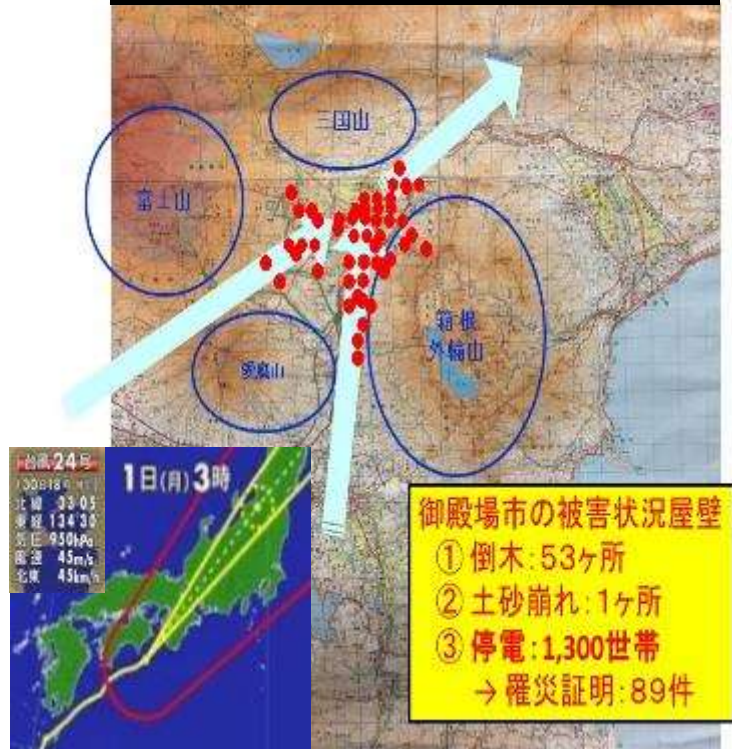
御殿場市域における主な災害

災害発生日	種 別	概 要
平成30年9月30日	台風24号	台風第24号による被害は、全国死者5名・負傷者227名・行方不明者2名（御殿場人的被害無し）、 停電1,300世帯、屋根・壁・シャッター損傷89件、倒木53ヶ所、土砂崩れ1ヶ所 など特に強風による物的被害を多数受ける。
令和元年10月12日	台風19号	台風第19号による御殿場市の被害は、 死者1名、負傷者1名、床上浸水6戸、床下浸水3戸、屋根や窓等の損壊31戸、農地等被害12箇所、市道陥没等の道路被害4箇所、河川護岸崩落等の被害4箇所、林道等の被害21箇所、東山旧岸邸、乙女3号井源泉施設、青少年広場の損傷、県指定天然記念物「東山のサイカチ」の損壊 などの被害を受ける。 被害総額約8,700万円 総雨量558mm

大雪：H26.2.14 豪雪被害



台風24号：H30.9.30 暴風被害



台風19号：R1.10.12 大雨被害



御殿場市の災害上の特性

①南西（7時）からの風雨に弱い地形

②分水嶺（小高い尾根）

③箱根外輪山西麓の急峻地形

災害から大切な命を守る！

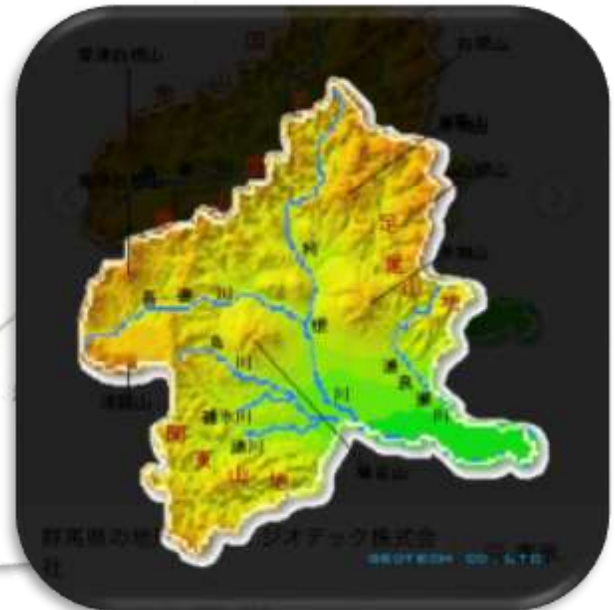
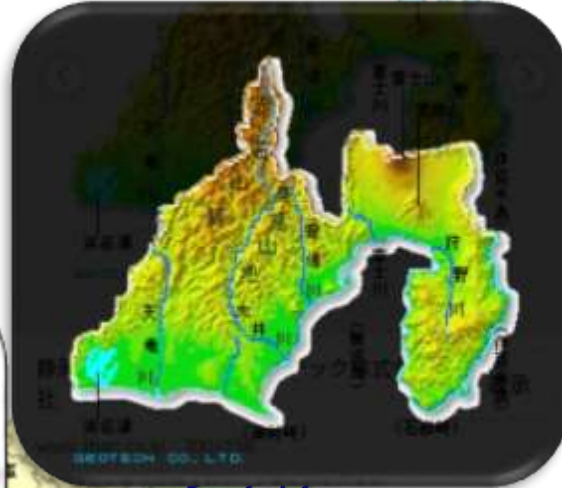
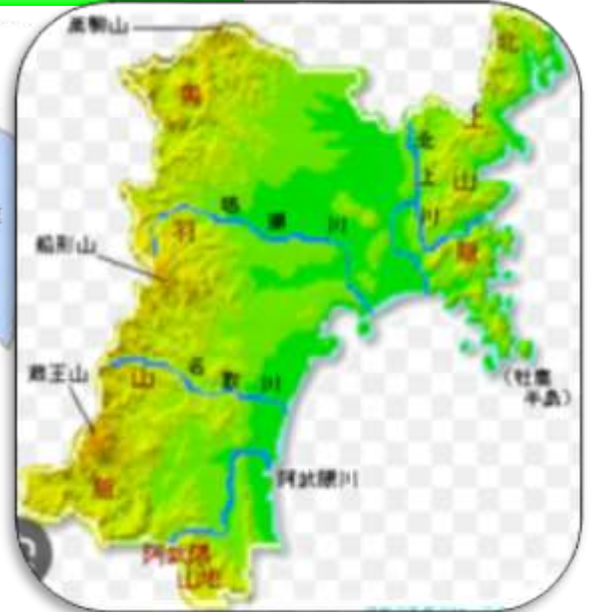
地を知り、危険を知り、我を知る
～ 静的地形 ・ 動的気象 ～

地形 × 気象 = 災害

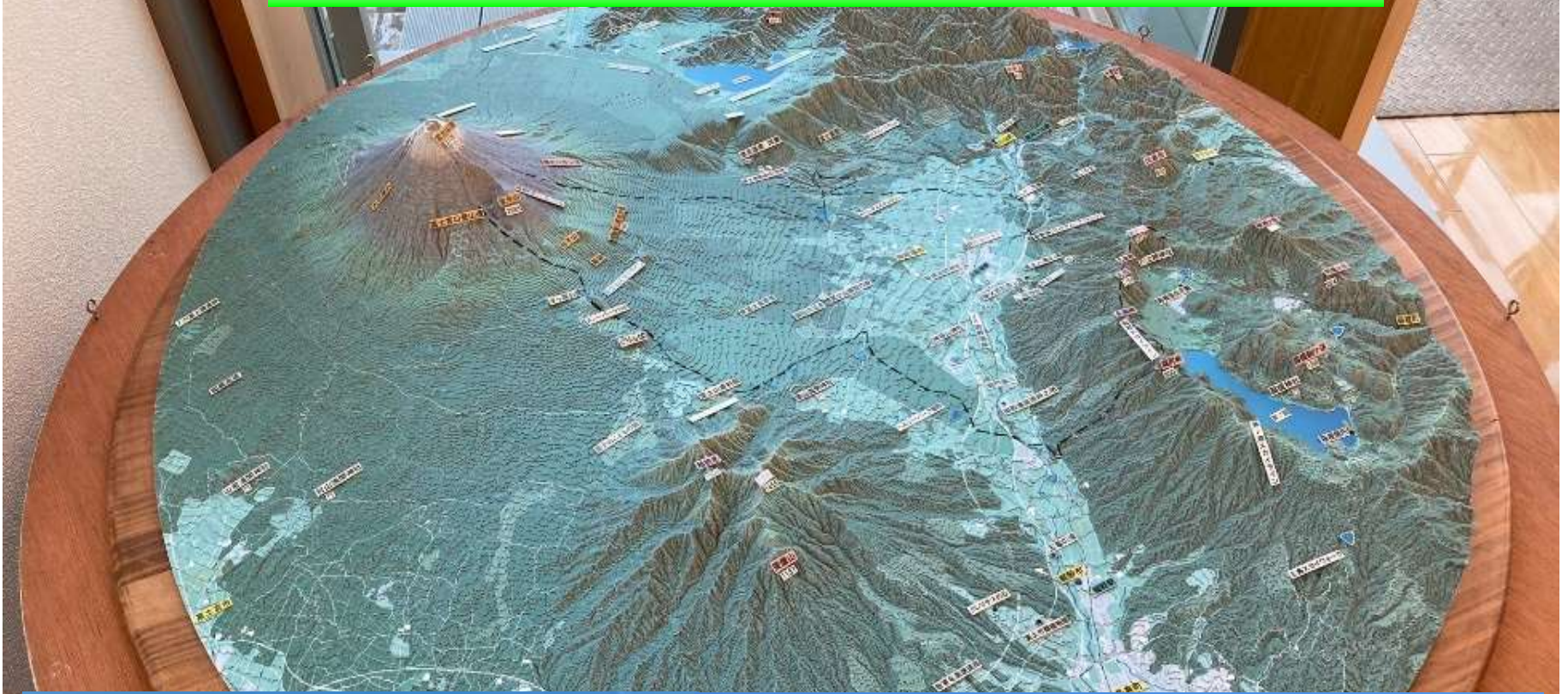
災害 × 人 ・ 物 × 時間 × 運 = 被害

⇒ いかに被害を防止・軽減するか
事前研究 ・ 情報 ・ 即応

地図を観ると災害が見えてくる！



①富士山・愛鷹山・箱根外輪山に囲まれた御殿場



富士山



愛鷹山



箱根外輪山

伊豆市『だるま山高原レストハウス展望台』

①富士山・箱根の中央に位置する御殿場市は？

西からの風雨・雪

南西からの風雨・雪

東からの風雨・雪



台風24号
(30日18時 推定)
北緯 33°05'
東経 134°30'
気圧 950hPa
風速 45m/s
北東 45km/h

1日(月)3時

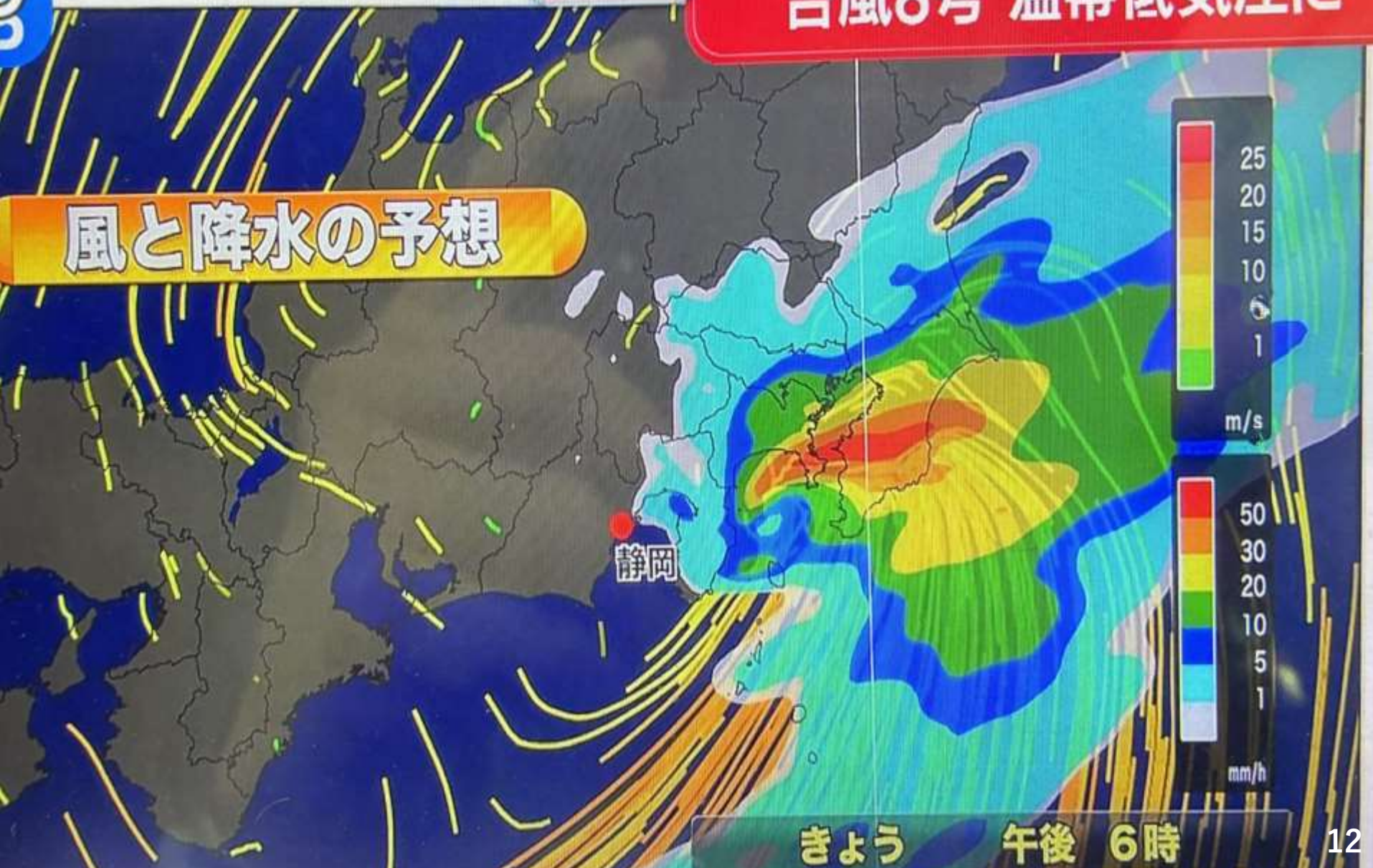


台風8号から御殿場を「天城山・箱根外輪山」が守ってくれた！

速報

台風8号 温帯低気圧に

風と降水の予想



きょう 午後 6時

②分水嶺（小高い丘）による影響





②主要地区標高・河川の流れ



相模湾

分水嶺



降水は『南北に2分』される！
∴ 一ヶ所に集中しない◎

▲御殿場市内標高差：約400m
⇒ 降雪量に影響（豪雪災害）

駿河湾

③土砂災害警戒区域



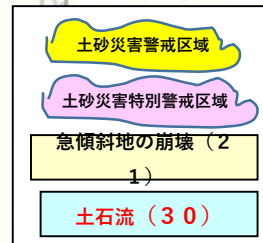
土石流(30)

◆ 土石流

豪雨によって山から崩れてきた土砂や石や岩が水と一緒にになって、ものすごい勢いで流れ落ちてくるもの

※ 速度は、時速40～50 km/hにもなります。

※ 大きな岩も流されて危険



★ 東山区
★ 二の岡

★ 沼田区

★ 萩蕪区

★ 中山上区

★ 二子区

★ 中山下区

★ 大坂区

★ 神山区

★ 高内区

★ 尾尻区

がけ崩れ(21)

◆ がけ崩れ (急傾斜地)

豪雨によって急な斜面が突然崩れ落ちるもの

※ 一瞬のうちに起こることが多いため、家が壊れ、逃げ遅れて亡くなる人が多い。

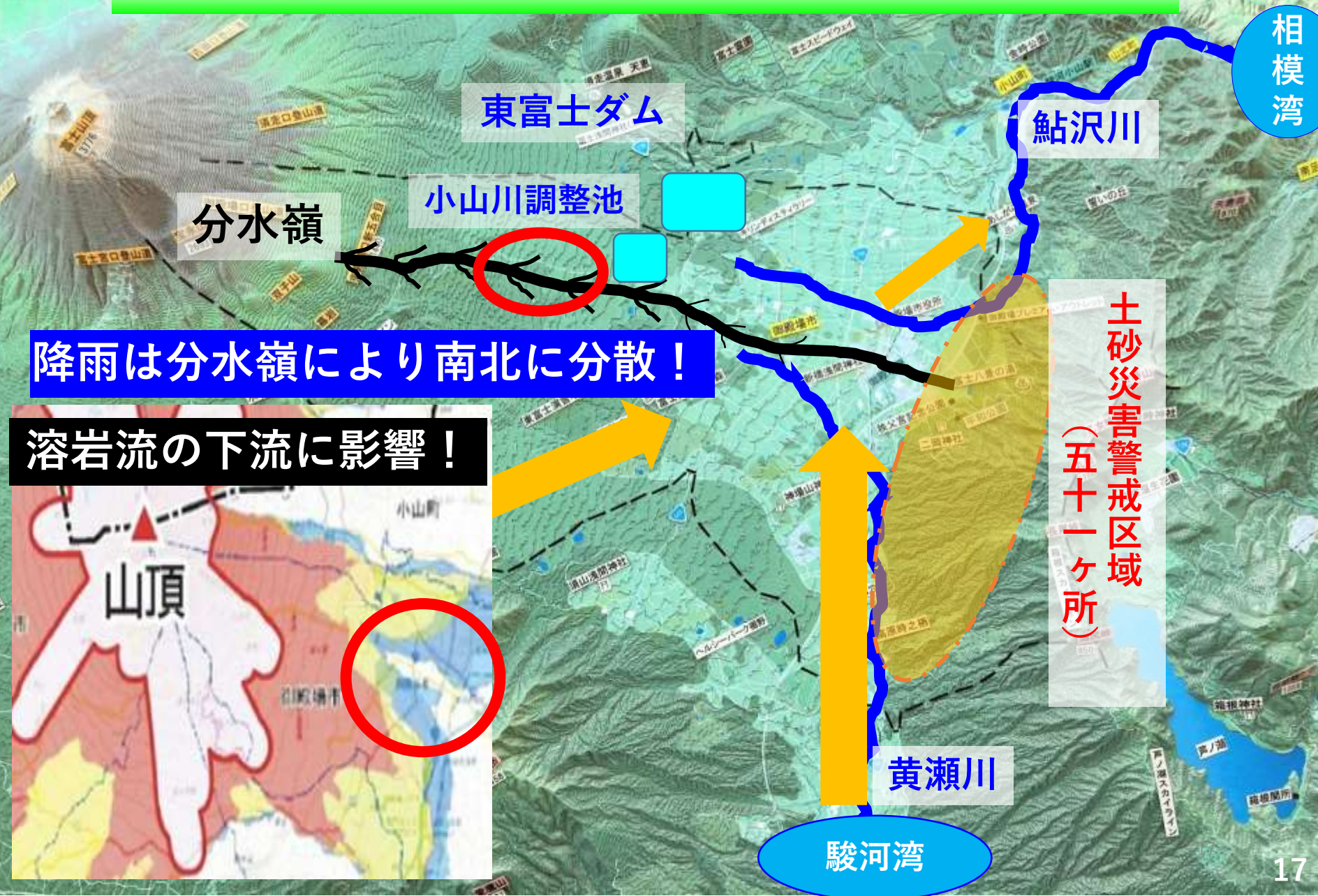


警戒区域該当区
11コ区

122世帯

310人

御殿場市の地形上の特性



降雨は分水嶺により南北に分散！

溶岩流の下流に影響！

土砂災害警戒区域
(五十一ヶ所)

山梨県東部・富士五湖を震源とする地震

(令和8年6月26日 (金) 22:29)

山梨東部地震・被害状況（小山町『震度5弱』、御殿場『震度4』の違いは？



1 地震の概要

発生日時	令和8年6月26日（金） 22時29分
最大震度	6弱（山梨県富士河口湖町）
県内最大震度	5弱（小山町）
震源地	山梨県東部・富士五湖 （北緯35.6度 東経139.0度 深さ20km）
地震の規模	マグニチュード5.6

2 県内の震度等

（1）震度

震度 5 弱	小山町
震度 4	沼津市、三島市、富士宮市、富士市、御殿場市、 伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町
震度 3	静岡市葵区、静岡市駿河区、静岡市清水区、伊東市、 藤枝市、袋井市、裾野市、伊豆市、東伊豆町、河津町、 南伊豆町、松崎町、西伊豆町
震度 2	浜松市中央区、浜松市浜名区、浜松市天竜区、熱海市、 島田市、磐田市、焼津市、掛川市、下田市、湖西市、 御前崎市、菊川市、牧之原市、吉田町、川根本町、森町

3 避難所の開設状況

地震による開設なし

4 人的・物的等被害の状況

(1) 人的・物的被害

市 町	人的被害（単位：人）					物的被害（単位：棟数）				
	死者	行方不明	重傷	軽傷		住 家			非住家	
	うち 災害 関連死					全壊	半壊	一部破損	公共建物	その他
御殿場市	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
三島市	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—

[物的被害の非住家は、半壊以上の被害である。]

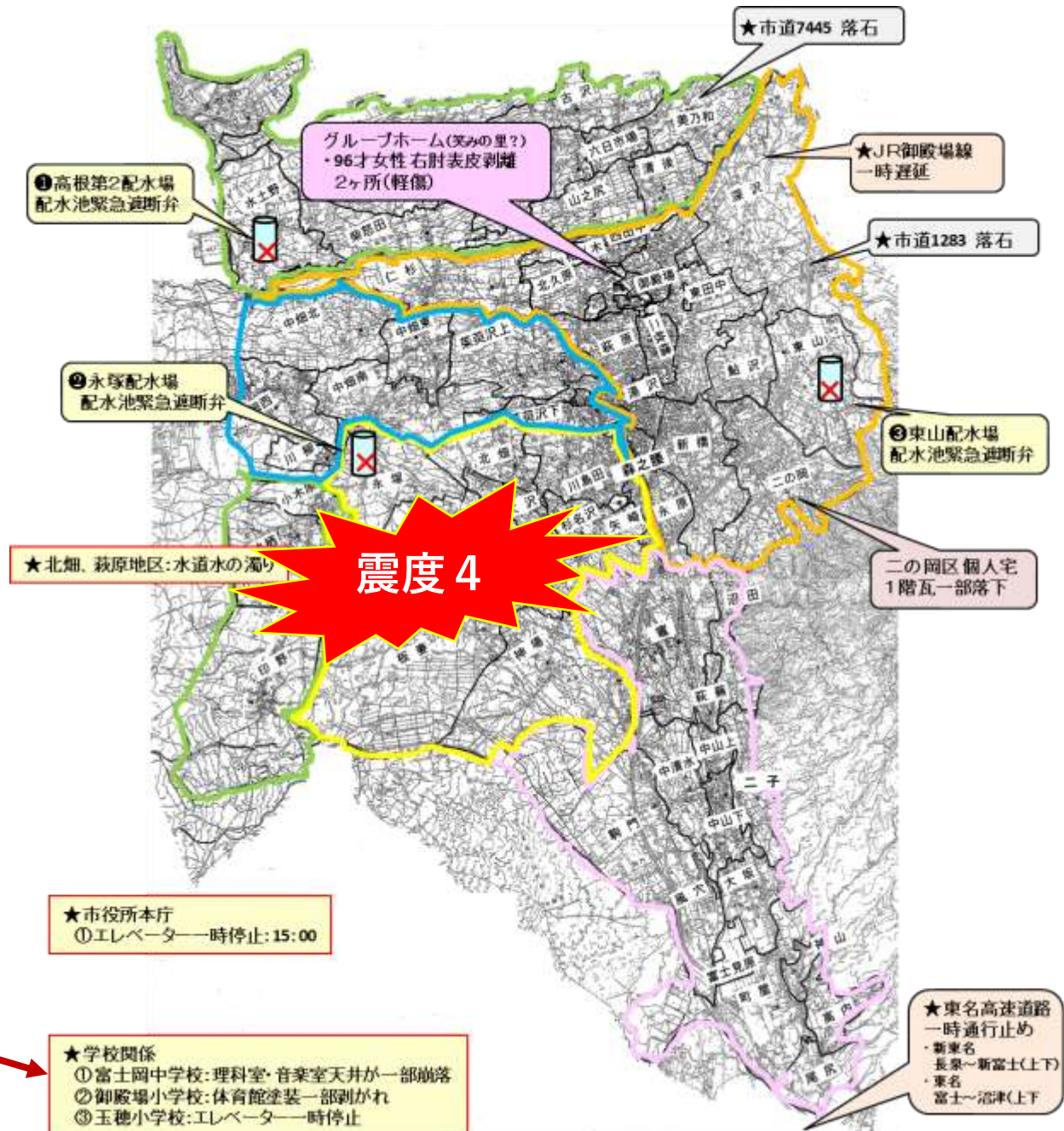
(2) その他の被害（人的被害なし）

市 町	被害状況
三島市	・ブロック塀倒壊：1件
小山町	・町役場一部破損 ・小学校一部破損：2校 ・ブロック塀倒壊：2件 ・瓦の落下：9世帯 ・崖崩れ：1箇所

山梨県東部・富士五湖を震源とする地震（26日22：29）の被害



天井の一部崩落



+

●被害状況（本部把握情報） 6/29(月) 13:00 現在+

・断水 小山3区、小山4区 110 件+

・家屋損壊等 43件(屋根の破損23件、ブロック塀等倒壊10件、地盤沈下・地割れ7件、その他3件)+

※滝沢配水池給水エリア内 復旧作業完了 17:00 通水+

+

●被害対応・・・主に断水+

【給水車 2台配置】+

6/27(土) 7:00～21:00 石堂公園・下谷第二遊園地+

6/28(火) 7:00～18:00 石堂公園・下谷第二遊園地+

【トイレカー 1台配置】+

6/28(土) 正午～17:00 小山 正福寺駐車場(8人利用)+

【あしがら温泉無料】 小山3区・小山4区住民+

6/28(日) あしがら温泉までの送迎車配置+

震度 5 弱

ブロック塀の倒壊



瓦屋根（棟瓦）の崩落

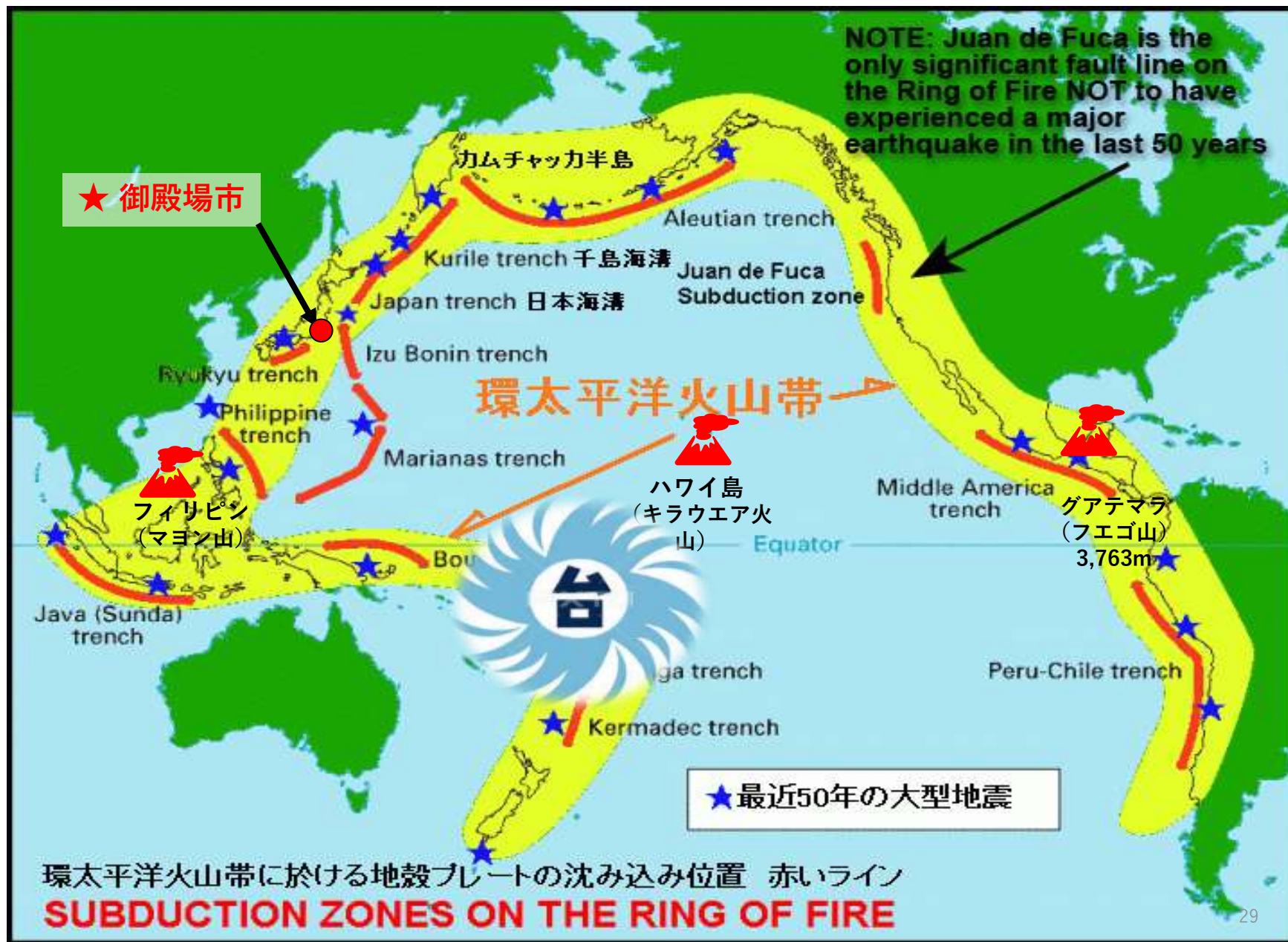


御殿場『震度4』、小山町『震度5弱』の違いは大きい！

震度 0	人は揺れを感じない。 	震度 5 弱	家具が移動したり食器や本が落ちたりする。窓ガラスが割れることもある。 
震度 1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。 	震度 5 強	たんすなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。 
震度 2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。 	震度 6 弱	立っていることが困難。壁のタイルや窓ガラスが割れドアが開かなくなる。 
震度 3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。棚の食器が音を立てることがある。 	震度 6 強	立ってはおれず、はわないと動くことができない。重い家具はほとんど倒れ、戸が外れて飛ぶ。 
震度 4	眠っている人のほとんどが目覚めます。部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。 	震度 7	自分の意思で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。 

地震災害への備え

環太平洋火山帯・台風の通り道



巨大地震と富士山噴火・台風の通り道

ユーラシアプレート

北米プレート

2007：中越沖地震

2004：中越地震

2011

1707：宝永噴火

太平洋プレート

1703：元禄相模地震

1995

1923

1884

1605

605

日本人は古の遠い昔から未来永劫
地震と運命を共にする民族である...

社会学者 清水幾太郎



フィ

静岡県第4次地震被害想定（平成25年

6月）

第4次地震被害 想定概要		駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震		相模トラフ沿いで発生する地震	
		レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
マグニチュード		8.0～8.7程度	9程度	8.0程度	8.2程度
震度7の地域		344km ²	344～732km ²	42km ²	109km ²
最大津波高		11m	33m	7m	10m
人的被害(死者数)	地震	約16,000人	約105,000人	約3,000人	約6,000人
	うち津波	約9,000人	約96,000人	約2,900人	約5,700人



南海トラフ巨大地震 発生確率

**南海トラフ地震
想定震源域**

©Google

先週水曜日

政府の地震調査委員会が公表

M8～9の巨大地震

30年以内の発生確率

**70～
80%**

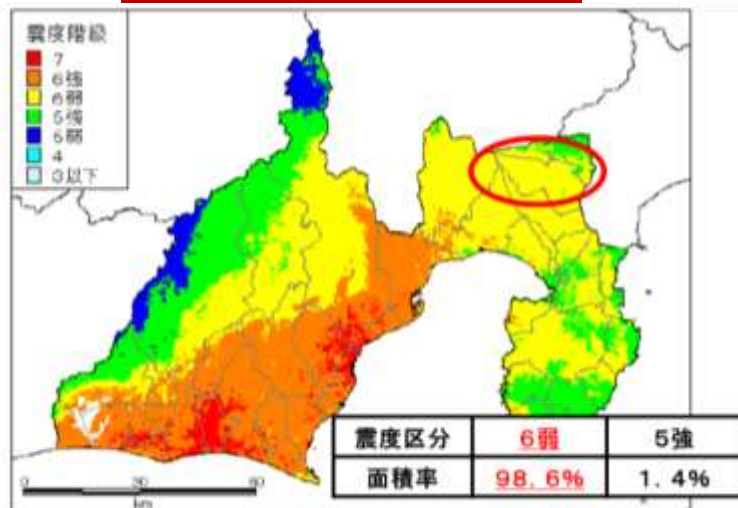
**80%
程度**

引き上げ

今月1日時点での計算

Q1: 南海トラフ・相模トラフ どちらが被害が大きい？

南海トラフ地震 被害想定



図Ⅱ-1.11(1) 震度分布図(東海・東南海・南海地震)
(注)内閣府(2012)の南海トラフ巨大地震の基本ケースの強震断層モデルを用いて計算したもの。

◎ 建物被害(御殿場市)

区分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約200	約1,300	約10

建物棟数...30,008棟

御殿場市内の5%の建物に被害

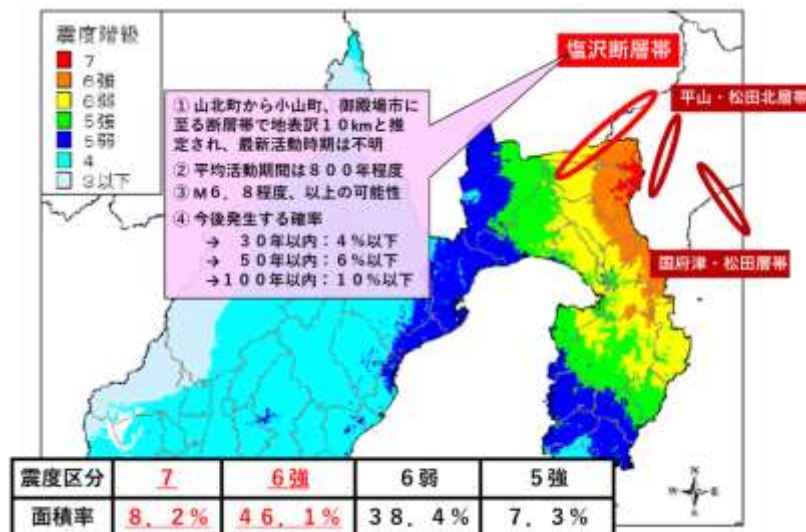
避難者数:約5,400人(避難所:約2,700人、避難所外:約2,700人)

◎ 人的被害(御殿場市)

区分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	—	約30	約200
(家具等の転倒)		(約10)	(約40)

1,000人中の約3人が重軽傷者

相模トラフ地震 被害想定



図Ⅱ-1.15(1) 震度分布図(大正型関東地震)

◎ 建物被害(御殿場市)

レベル1(冬・夕)

区分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約4,440	約5,200	約700

建物棟数...30,008棟

御殿場市内の約35%の建物に被害

避難者数:約23,800人(避難所:約11,900、避難所外:約11,900人)

◎ 人的被害(御殿場市)

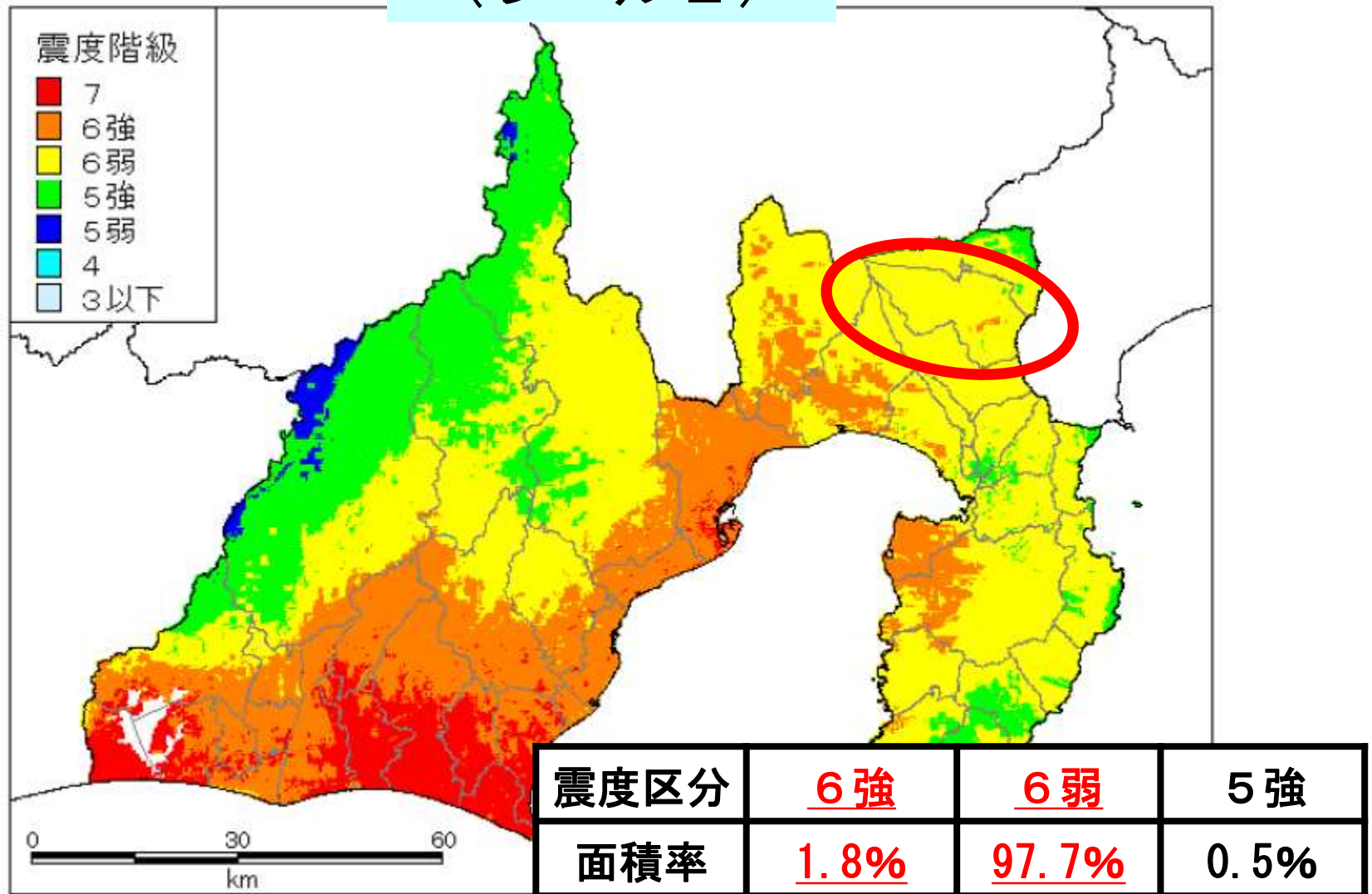
レベル1(冬・深夜又は早朝)

区分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	約40	約500	約1,300
(屋内収容物移動等)	(約20)	(約70)	(約300)
火災			約10

100人中の約2人が死者・重軽傷者

南海トラフ沿いの地震の震度

(レベル2)



図Ⅱ-1.14 (1) 震度分布図 (南海トラフ巨大地震 東側ケース)

御殿場市で想定される被害（南海トラフ巨大地震）

◎ 建物被害（御殿場市）

レベル2（東側ケース、冬・夕、予知あり）

区分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約600	約2,500	約20

建物棟数・・・30,008棟

御殿場市内の2%の建物に被害

避難者数：約8,000人（避難所：約4,000人、避難所外：約4,000人）

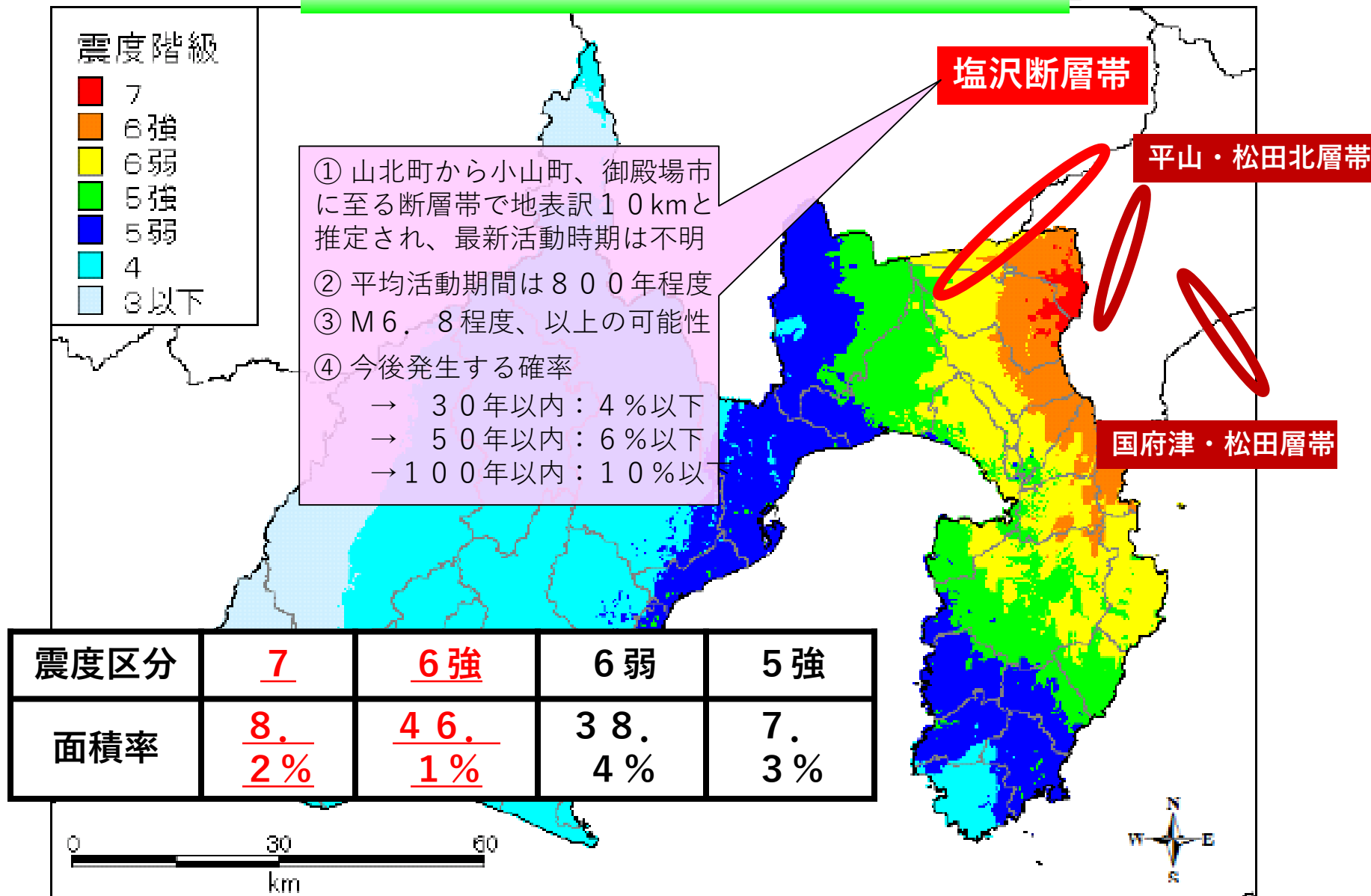
◎ 人的被害（御殿場市）

レベル2（東側ケース、冬・深夜又は早朝、予知なし）

区分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	約10	約60	約500
（家具等の転倒）		（約10）	（約60）

1,000人中の約6人が死傷又は重軽傷者

相模トラフ沿いの地震の震度



図Ⅱ-1.15 (1) 震度分布図 (大正型関東地震)

御殿場市で想定される被害（大正型関東地震）

◎ 建物被害（御殿場市）

レベル１（冬・夕）

区 分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約4,440	約5,200	約700

建物棟数・・・30,008棟

御殿場市内の約35%の建物に被害

避難者数：約23,800人（避難所：約11,900、避難所外：約11,900人）

◎ 人的被害（御殿場市）

レベル１（冬・深夜又は早朝）

区 分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	約40	約500	約1,300
（屋内収容物移動等）	（約20）	（約70）	（約300）
火 災			約10

100人中の約2人が死者・重軽傷者

震災における一般的活動

段 階 区 分	予 防	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期
		即時対応期	応急対応期	本格対応期	復旧・復興期
		(発災当日)	(1～3日程度)	(3日～1W)	(1W～数年)
状 況	★ 前震	★ 地震発生 被害状況の判明／避難所運営 ★ ライフライン (電気・水道・ガス・電話・交通等) 寸断 ★ 火 災 ★ 津 波 // 富士山噴火			
災 害 対 応	防災教育 防災訓練 防災会議 ・ 非常時の備え	◆ 自助 (先ずは自分自身で身を守る！) ◆ 共助 (地域の人々がお互いに助け合う！) ◆ 公助 (行政を中心とした様々な対応、大規模災害では行政機関も被災) 緊急対策 (救命・救出) → 応急対策 (ライフライン復旧) → 復旧・復興対策 (社会基盤の再建)			
災害対策本部の行動	規則整備 本部付班 図上訓練 総合訓練	◆ 市役所職員参集 ● 避難所・救護所の設置・運営 ①情報活動 ②本部員会議開催 (災害応急対策) ③災害広報 ★ 災害対策本部 (支部) 設置 ④県への報告等			
活 動 内 容	防災訓練 ・ 待機任務	● 初動体制確立 ● 人命の救助 ● 避難所の開設	● 人命の救助 ● 行方不明者の の搜索等	● 生活支援 ● 復旧支援等 仮設住宅建設	● ライフ インの復旧 ● 生活再建

地震や津波による被害



地震発生に伴い発生する被害・事象・影響

地震の発生（規模・時期気象 等）

（状況不明）

被害の規模の予測

対応体制の構築



大地震



大津波

建築物倒壊・流失
崖崩れ、宅地崩落
液状化・地盤沈下
ため池決壊
文教施設損壊
医療施設損壊
道路・橋梁損壊
河川施設損壊
港湾施設損壊
空港施設損壊
鉄道施設損壊
砂防施設損壊
清掃施設損壊
農地流失・埋没
ライフライン損壊
船舶流失・損壊
家屋等流失
養殖施設の流失
農地へ海水流入
施設倒壊
火災・炎上・爆発
汚染物質の流出

死者・行方不明者
火災の発生
負傷者の発生
避難者の発生
庁舎・職員の被災
学校施設閉鎖
医療機能の低下
道路の不通
鉄道の運行停止
港湾・空港閉鎖
瓦礫の発生・散乱
断水
停電
電話の不通
ガス供給停止
下水道使用停止
農漁業基盤の喪失
土壌・作物の汚染
農作物等の汚染
海洋（水）汚染
工場・発電停止

社会的不安の増大
震災孤児の発生
帰宅困難者の発生
孤立地域の発生
行政機能の不全
→ 応急対応の遅れ
避難所開設制約
応援部隊進出遅延
→ 救助活動の遅延
→ 消火活動の遅延
→ 医療活動の制約
救援物資輸送遅延
遺体処理の制約
瓦礫処理の所要大
事業所閉鎖・移転
流通機能のマヒ
燃料の不足
農漁業活動の停止
外国人の国外退去
風評被害
資機材・電力不足
広地域立入禁止

執るべき災害応急対策

富士山噴火

御殿場市災害対策本部の活動状況（4. 8. 25）



高根支所 (高根支部)

	高根地区
1	塚原(つかばら)
2	六日市場(むいかいちば)
3	美乃和(みのわ)
4	清後(せいご)
5	山之尻(やまのしり)
6	柴惣田(しばんた)
7	上小林(かみこばやし)
8	水土野(みどの)
9	古沢(ふるさわ)

御殿場市の行政区域 (1・6・59)

高根
4,374人
5.4%

玉穂
8,480人
10.4%

印野
1,911人
2.4%

玉穂支所 (玉穂支部)

	玉穂地区
1	柴更沢下(ぐみざわしも)
2	柴更沢上(ぐみざわかみ)
3	中畑東(なかばたひかし)
4	中畑北(なかばたきた)
5	中畑南(なかばたみなみ)
6	中畑西(なかばたにし)
7	川柳(かわやなぎ)

印野支所 (印野支部)

	印野地区
1	小木原(おぎわら)
2	時之栖(ときのみす)
3	印野(いんの)

原里支所 (原里支部)

	原里地区
1	川島田(かわしまた)
2	森之腰(もりのこし)
3	杉名沢(すぎなざわ)
4	神場(じんば)
5	板妻(いたづま)
6	保土沢(ほとざわ)
7	永塚(ながつか)
8	北畑(きたばた)
9	大沢(おおさわ)
10	矢崎(やざき)

原里
15,484人
19.1%

御殿場地域振興センター (御殿場支部)

御殿場
35,190人
43.3%

富士岡支所 (富士岡支部)

富士岡
15,828人
19.5%

	御殿場地区
1	御殿場(ごてんば)
2	深沢(ふかさわ)
3	東山(ひがしやま)
4	東田中(ひがしたなか)
5	二の岡(にのおか)
6	鮎沢(あいざわ)
7	新橋(にいはし)
8	湯沢(ゆざわ)
9	萩原(はぎわら)
10	二枚橋(にまいはし)
11	西田中(にしたなか)
12	北久原(ほくくばら)
13	仁杉(ひとすぎ)
14	栢ノ木(かやのぎ)
15	永原(ながはら)

	富士岡地区
1	竜(かまど)
2	萩蕪(はぎかふ)
3	沼田(ぬまた)
4	二子(ふたご)
5	中山上(なかやまかみ)
6	中山下(なかやましも)
7	風穴(かざあな)
8	中清水(なかしみず)
9	駒門(こまかど)
10	大坂(おおさか)
11	町屋(まちや)
12	高内(たこうち)
13	尾尻(おじり)
14	神山(こうやま)
15	富士見原(ふじみはら)

御殿場市災害対策本部・支部（区）会議



御殿場支部



富士岡支部



原里支部



玉穂支部



印野支部



高根支部

D日H時
災害発生

災害発生時の情報、指示・報告の流れ（５９・６・１）

「御殿場災害情報」：上りの情報・下りの指示 ご苦労（５９・６）重ねてー（１）になる！

市役所

・同報無線
・ほっとメール
・FM放送



県災害対策本部（東部方面本部）

・防災情報共有システム（F U J I S A Nシステム）等

御殿場市災害対策本部

（本部長：市長、本部員：副市長・各部長等）

消防（消防団）・警察・自衛隊
ライフライン・FM御殿場等
関係機関

避難所
派遣職員

市指定避難所（２８ヶ所）
（福祉避難所（１０ヶ所））

防災無線・衛星携帯・電話・
伝令等による報告
（メール・FAX等含む。）

支部
派遣職員

中・小学校、保育幼稚園等

御殿場支部

富士岡支部

原里支部

玉穂支部

印野支部

高根支部

無線・電話・伝令等
による報告



５９区災害対策本部（公民館・コミセン）

各区内班・組等

安否確認、被害状況の把握・報告



災害対策本部の組織と執るべき災害応急対策

全部・要員が一丸となって災害応急対策＝住民の生命、身体、財産の保護を遂行する！！

自治体の責務

住民の生命、身体及び
財産の災害からの保護

災害対策本部

本部長

副本部長

本部員
(各部局長)

本部要員

○参謀として本
部長の意思決
定を補佐

○実行部隊とし
て、本部決定
事項を執行

各部長の立場

本部室付班

企画部

総務部

市民部

健康福祉部

環境部

産業スポーツ部

都市建設部

会計部

教育部

議会部

広域行政部

支部

非常備消防部

常備消防部

実施すべき業務

執るべき災害応急対策

◎ 発災当日の被害状況

①救護所の開設・運営状況

②避難所の開設・運営状況

③応急危険度判定実施状況

④備蓄物資の配分状況

⑤ライフラインの復旧状況

⑥観光客への対応

⑦遺体収容所の開設・運営状況

⑧災害ボランティア本部開設支援

⑨農林業施設の被害及び復旧状況

⑩安全情報の収集に関する状況

⑪市民広報及び報道対応状況

⑫職員の被害状況及び再編成

⑬本部施設の被害・復旧状況

⑭公用車の集中管理（配車）状況

・情報収集・提供・伝達
・報告・要請・連絡・調整
・要請・要求・相談への対応

住民

学校
(避難所)

自主防災会等

民児委協議会

管理施設

関係機関

事業所

協定業者

観光施設

マスコミ

社会福祉
協議会等

帰宅困難者
(観光客)

国・他自治体

応援部隊

協定締結市

要配慮者

在留外国人

その他 45

主要な災害応急対策

捜索・救助



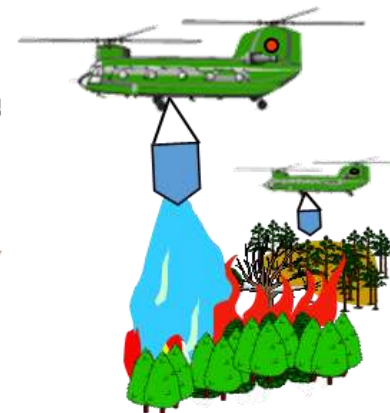
物資輸送



患者空輸



消火活動



避難所の開設



救護所の開設



災害ボランティア本部



入浴支援



給水・給食支援



埋火葬対応



ライフライン復旧活動

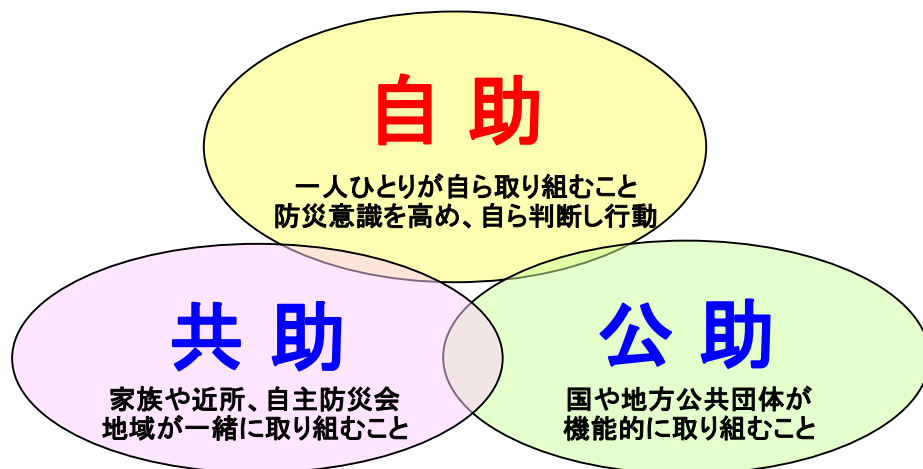


災害対策本部



日本の災害対策の原則は『総合的な地域防災力』

- ① 住民一人ひとりが自ら行う防災活動による「自助」
 - ② 自主防災組織や消防団、学校など地域社会による「共助」
 - ③ 国・地方自治体、その他の公共機関による「公助」
- を含めた「総合的な地域の防災体制・能力」



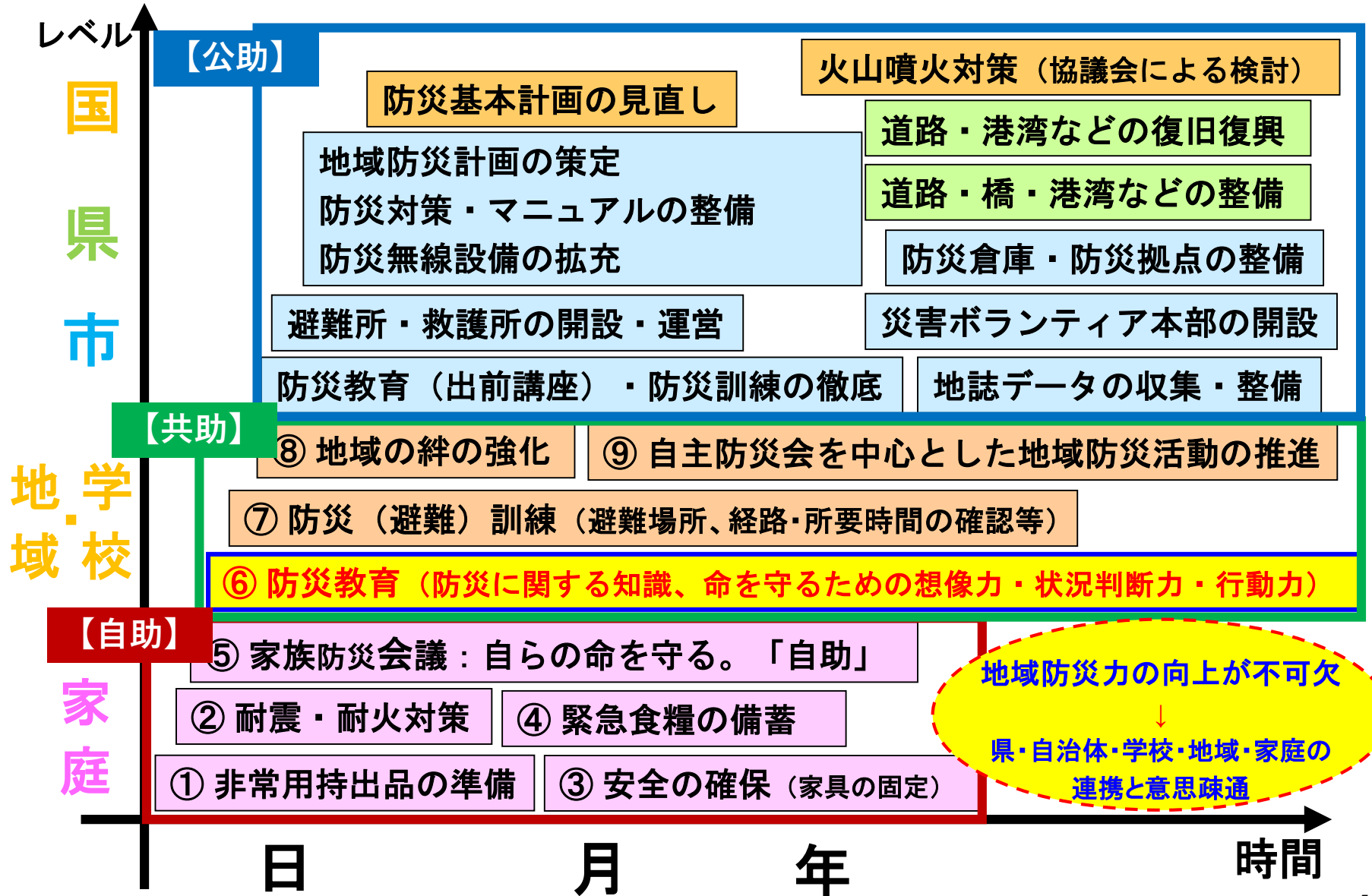
阪神淡路大震災時の救助比率『7:2:1』

⇒ 災害は「自分事」(一人ひとりの防災力の向上)

地域・学校・企業などにおける「防災教育」の充実



自助・共助・公助の総合的な地域防災力



新潟県中越沖地震の概要

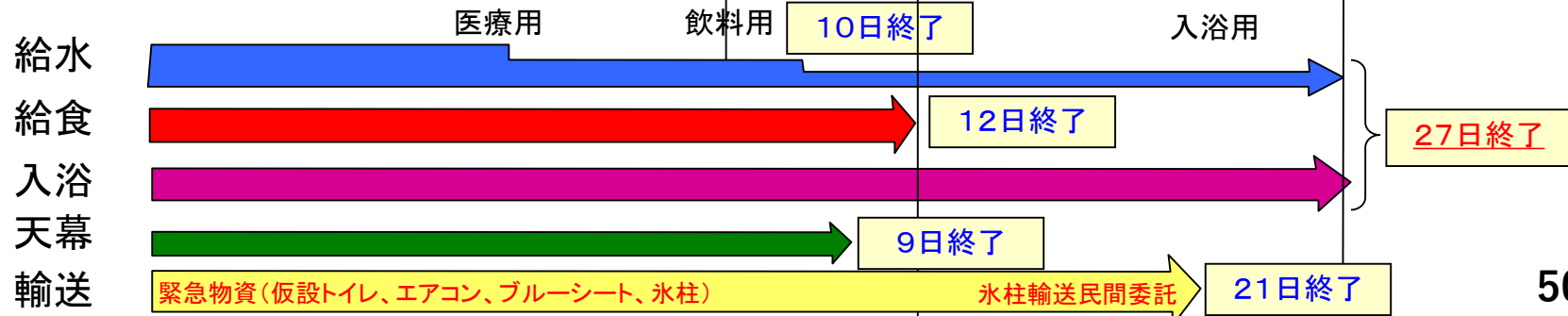
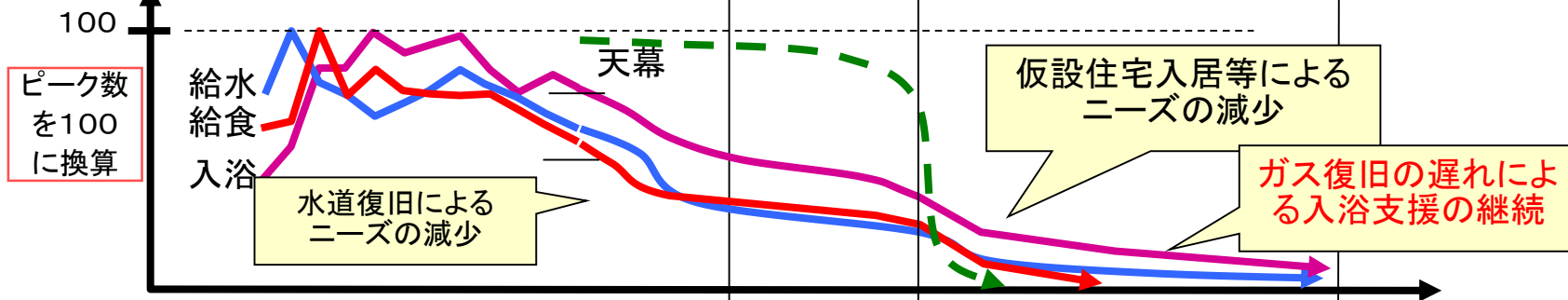
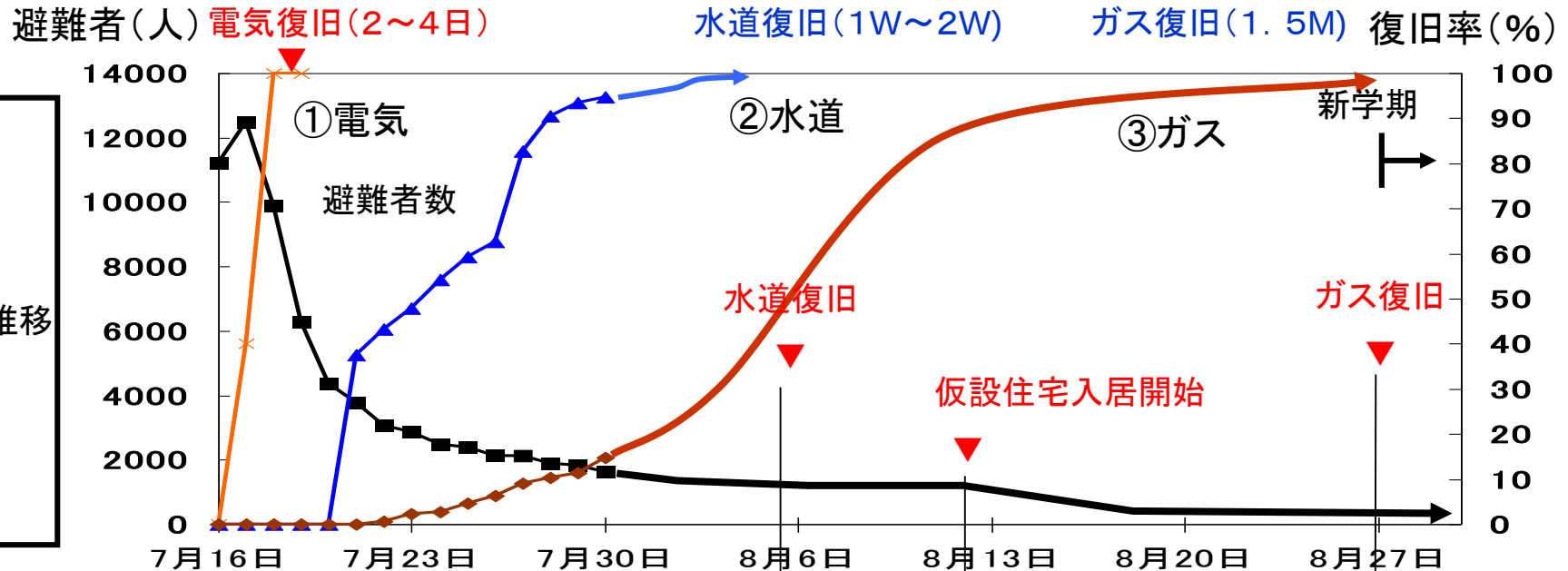
- 1 発生日時：平成19年7月16日（月） 10時13分頃
- 2 震央地名：新潟県上中越沖 （柏崎市人口：約9.5万人）
- 3 震源の深さ：約17km
- 4 地震規模：マグニチュード6.8
- 5 各地の震度：震度6強－新潟県柏崎市、長岡市、刈羽村
震度6弱－新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町
- 6 津波：津波注意報（同日11時20分解除）
- 7 被害：3年前の新潟県中越大震災の苦難の記憶覚めやらぬ新潟県に、再び大きな被害をもたらした。
県下20の市町村が被災し、15人の尊い生命が失われ、
重軽傷者2千名を超えたほか、ピーク時には1万2千人
以上の方々が避難所での不自由な生活を余儀なくされた。

中越沖地震における民生支援所要の変化と活動実績

状況推移

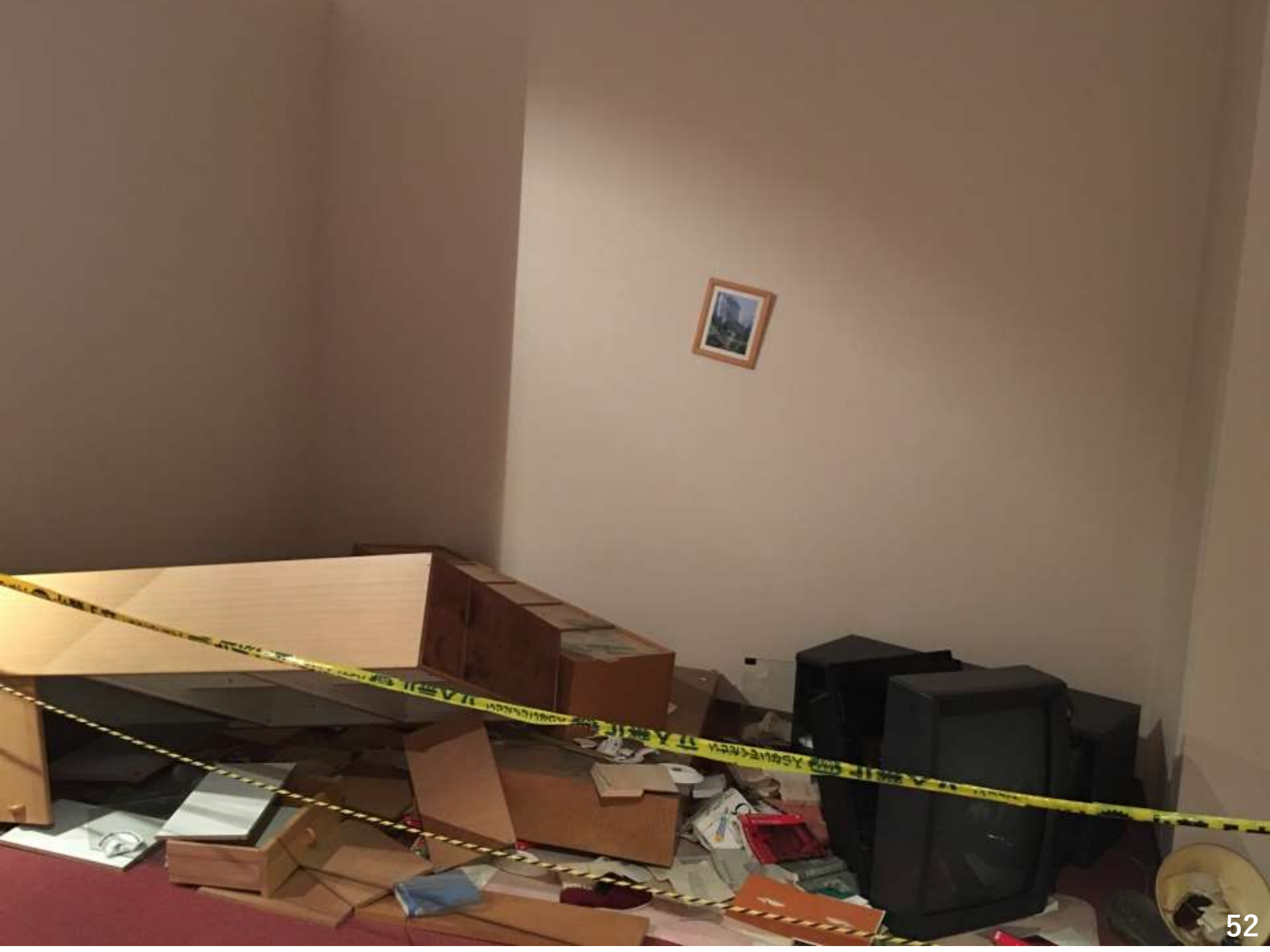
民生支援
所要変化

活動実績



地震対策（事前の準備）

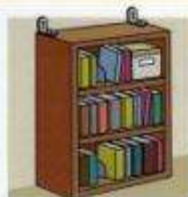
状 況	★地震・津波の予測困難 ★被災史に学び対策を確立
テ ー マ	① 物心両面の準備－物の準備と心構え ②命を守るための知識と行動
具 体 的 事 項	①非常用持出品の準備－リックサックで準備（男性15kg、女性10kg） 食料、衣類、貴重品、照明器具、医療品・衛生用品等 ②耐震・耐火対策（診断・耐震補強）－耐震工事（建築基準法）、地震保険への加入 ③安全の確保（家具の固定）－耐震金具の利用、照明器具の補強、ガラス飛散防止 ④緊急食糧の備蓄－最低3～7日間家族が生活できる水・食料・簡易トイレを備蓄 －消火器、救急箱、ラジオ、大型懐中電灯（電池）、軍手、ロープ、ノコギリ、バール、スコップ、毛布、防水シート、笛、筆記用具等） ⑤家族（職場）防災会議－発生後100時間（約4日間）の間に何をすべきかを考える。 ⑥防災教育－地元の災害について学ぶ（ハザードマップ、地震等に関する知識等） ⑦防災（避難）訓練－避難場所、避難経路（所要時間）の確認、連絡要領の確認 ⑧地域の絆の強化－日頃から地域の活動（お祭り、清掃活動、運動会等）に参加 ⑨自主防災会の強化－自分の地域は皆で守る「共助」、地域防災の実践 ⑩国・地方自治体による防災対策－予算の裏付けによる中長期的備え → 生き残るために：「物の備え」・「心の構え」・「防災的想像力」 ★瞬時の判断「お・う・た・わ！」（落ちる物・動く物・倒れる物・割れる物！）



安全確保のための処置

家具などの対策も重要

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。新潟県中越地震（平成16年10月）でも、負傷者の約5割は家具類の転倒・落下、ガラスの飛散によるものでした。家具の固定や配置方法の工夫を行い、家の中の安全性を高めておきましょう。



■収納に工夫を

- 重いものは下に、軽いものは上に。
- 本棚などは、隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく隙間を作らない。



■照明器具の補強を

- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止める。



■置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にしておく。
- 就寝場所には、家具が倒れてこないように配置する。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないように。



透明シート

■ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼る。

■耐震金具を利用しよう



◎転倒防止金具

壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。

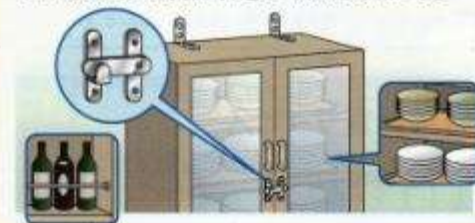


◎重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。

◎扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。





屋内での行動

強い揺れから命を守る



丈夫な机の下など
安全なスペースに避難



つり下がっている
照明などの下から避難



慌てて外に飛び出したり
無理に火を消そうとしない

屋外での行動

お・う・た・わ
落ちるもの・動くもの・倒れるもの
割れるものから離れる



ブロック塀や
自動販売機の転倒に注意



丈夫なビルの中に
避難する



揺れがおさまった後も
落下物に注意

カラオケ『3秒ルール』



何を唄うか？ 選曲は入店当初から始まっていた…
～ 防災もカラオケも「心の準備」が必要です！ ～

『カラオケ3秒ルール』
か/だった!!



『もう悩まない、カラオケ3秒ルール・4秒で転送!』

地震への備え。大多数の人が

知っているけど、実践していない。

防災知識と、実際に防災対策として実践していること

2016年8月(n=1035) ■ 知っていること ■ 現在、実践していること



災害対応（平時～災害時）の流れ



『備えあれば憂いなし』

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危きを思う
思えばすなわち備えあり
備えあれば患い無し



～ 災害対策で大切なこと 『惨劇を忘れない！』 ～
「反省と忘却の繰り返し」からの脱却

防災



Q & A

やれることはすべてやったし、手を抜いたことは一度もありません。
常にやれることをやろうとした自分がいたこと、それに対して準備ができた
ことを誇りに思っています。

資料源:「夢をつかむ イチロー262のメッセージ」より